



吉田拓志

東京都大田区開業
日本顎咬合学会会員(指導医)
日本歯周病学会会員(認定医)
スタディーグループ赤坂会 幹部

アトランティス アバットメント ゴールドシェード及び コア ファイルを用いた院内完結型臼歯部単独歯欠損症例

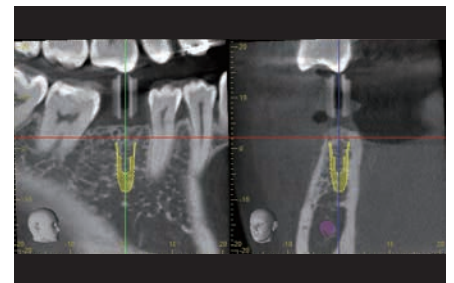
患者は47歳女性、下顎右下第一大臼歯の治療を主訴として来院された。残根状態にあったため予後不良として抜歯後インプラント治療計画を立案。口腔内スキャナー、アトランティス アバットメント、コア ファイルを用いる事により、すべて院内で治療を完結することができ、患者、術者ともに負担の少ないインプラント治療が提供できた。



1. 下顎右側第一大臼歯が残根状になっている。



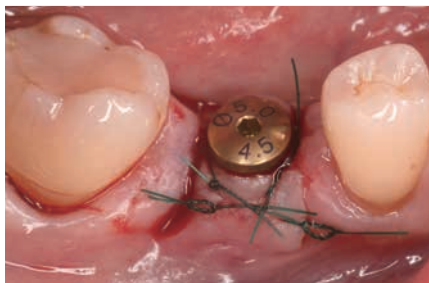
2. 抜歯2か月後、軟組織は良好な治癒を認めた。



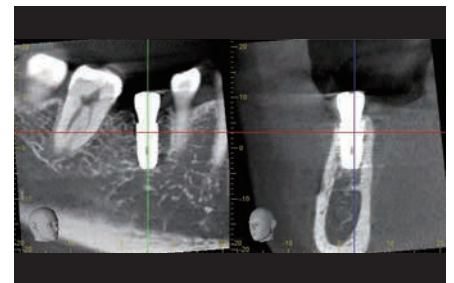
3. サージカルステントを装着し撮影されたCT画像上でインプラントのシミュレーションを行った。大臼歯として最適なエマーゼンスプロファイルを与える為、骨頂より2mm下方にインプラントポジションを計画した。



4. 最小限の切開を行い、計画通りのポジションにインプラントを埋入した。骨頂より約2mm下方にインプラントのフィクスチャーヘッドが確認できる。



5. フィクスチャー埋入時の初期固定が良好だったため、一回法にてインプラント埋入手術を行った。頬側歯肉弁を根尖側に移動することにより角化粘膜の幅を増やすことができる。



6. 術直後のCT画像。インプラントはシミュレーション通りの位置に埋入されている。



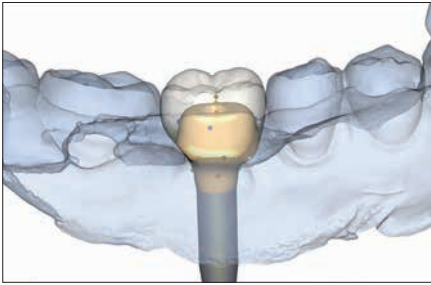
7. 術後6週間後、良好な軟組織の治癒を認める。



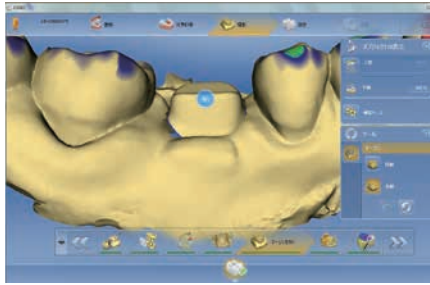
8. IO FLOを装着して口腔内をスキャンする。



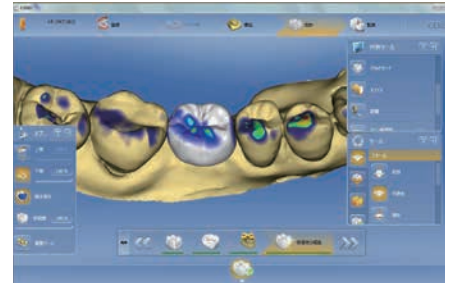
9. スキャンしたデータをデンツプライシロナのデジタル製品製造所であるDDSCに送る。



10. アトランティス 3Dエディター上でアバットメントのデザインを決定する。理想的な大白歯のエマージェンスプロファイルを与えるため、アバットメントの歯肉縁下のカウンターを調整する。



11. アバットメントデザインはコア ファイルというデータとしてダウンロードし、CERECにインポートする。コアファイルはアバットメントがデリバリーされる前に提供されるので、補綴装置の製作期間が短縮ができる。



12. CEREC上で上部構造をデザインし、ミリングマシンでジルコニアブロックを削り出す。



13. 削りだされたジルコニアブロック。研磨、形態修正後CEREC SPEED FIREにてシタリングを行う。



14. デリバリーされたアトランティス アバットメントゴールドシェードとインサージョンガイド。



15. アトランティス アバットメント ゴールドシェードと製作されたフルジルコニアクラウンは良好な適合性を認めた。



16. アトランティス アバットメントインサージョンガイドを用いて、適切なポジションに装着する。



17. 装着されたアトランティス アバットメント。装着時は粘膜貫通部を若干圧迫していたが、すぐ貧血帯は消えた。



18. アバットメント装着時のデンタルX線写真。アバットメントの粘膜貫通部の形態が理想的な立ち上がりになっている。



19. 最終補綴装置装着後。隣在歯と調和した軟組織形態、色調が確認できる。



20. 最終補綴装置装着後のデンタルX線。アバットメントと補綴装置との良好なフィットが確認できる。

Case Report は著者による実症例を紹介することを目的に作成しています。カタログ中に記載されている™および®は、米国連邦商標法に基づき記載されたもので、日本における登録商標を意味するものではありません。
www.dentsplysirona.com